The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	名古屋方言話者のスタイル切換え
Author(s)	阿部, 貴人
Citation	阪大社会言語学研究ノート. 2005, 7, p. 1-20
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/23222
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

『阪大社会言語学研究ノート』第7号（2005年3月）1-20

名古屋方言話者のスタイル切換え

阿部貴人

1. 調査の概要

1.1. インフォーマント情報

〔表1〕

	年齢	職業	居住歴
SA	65	大学講師	0-：愛知県名古屋市中村区
SC	62	洋服店	0-：愛知県名古屋市中村区
YA	21	学生	0-：愛知県名古屋市中村区
YC	21	学生	0-：愛知県名古屋市中村区
YF	28	学生	0-18：青森県弘前市　18-東京都　22-大阪府

1.2. 談話情報

〔表2〕

	話者	話者間の関係	収録時間	談話の展開
老－老*1	SA－SC	得意客（SA）と店主（SC）	45分	同程度の発話量
老－調	SA－YF	初対面	38分	SAが主に話す
若－若	YA－YC	大学のサークル仲間	34分	同程度の発話量
若－調	YA－YF	初対面	32分	YFが質問、YAが答える

*1 SAは、SCが経営する洋服店の得意客で、年齢も上であることから、他地域の「老－老」とは性質が異なる可能性がある。

まず本稿で用いる記号等についてまとめる。

話者記号は年層（S＝老年層、Y＝若年層）、話者の役割（A＝分析対象者、C＝カジュアルな話し相手、F＝フォーマルな話し相手（調査者））の順に付す。したがって、分析対象とする老年層はSA、分析対象とする若年層はYAとなる（表1参照）。

本文中で談話例を挙げる際には、老年層同士の談話（SAとSCの談話）を〔老－老〕と表記する。同様に、老年層と調査者の談話を〔老－調〕、若年層同士の談話を〔若－若〕、若年層と調査者の談話を〔若－調〕と表記する（表2参照）。また、場面に言及する際には「SAの《対調》」のように《　》内に場面（《対老》＝老年層との会話場面《対若》＝若年層との会話場面、《対調》＝調査者との会話場面）を入れて表記することもある。

次に、本稿のデータについての特殊性（SSプロジェクトの他地点データとの違い）について述べておく。本稿のインフォーマントであるSAとYAは血縁関係にない。SSプロジェクトの他地域で収録されている〔老－若〕は収録していないため、〔老－老〕、

〔老ー調〕、〔若ー若〕、〔若ー調〕の4談話が分析資料となる。

また、SAが大学講師であり、YFが学生であったことから、SAにとって《対調》は必ずしもフォーマルな場面ではないと考えられる（§2.5.丁寧形式の分析などからもそのように考えることができる）。以下、SAの《対調》は「フォーマル」ではなく「非カジュアル」という。その点、他地域の話者の《対調》と性格が異なることを断っておく。

2. 結果および考察

2.1. 自称詞

2.1.1. 結果

〔表3[*1]〕

	SA		YA	
	対老	対調	対若	対調
ボク	19	31	2	15
オレ	1	1	-	-

*1 孫との会話を直接引用する発話で「ジージ」を3例使用する（《対老》）。直接引用発話は表に含めない（以下の表も同様）。

(1) SAは《対老》《対調》の両場面で、主にボクを使用する。

(2) SAが《対老》《対調》で各1例使用したオレは、以下のような発話である。

〔1〕

035SA:孫たちが いくつに なるまで 生きとれるかなー なんてさ。

036SC:そりゃ まー ね お嫁に 行くまでは 絶対 大丈夫ですよ。

037SA:どうだろー んなもん あと 15年だよ↑

038SC:そーでしょ↑ まだ 今ー 15年ったら まだー あれですもんね↑

→039SA:俺 80になってるよ。 〔老ー老〕

〔2〕

→006SA:(前略)したら「少しだけ 現場を ＃＃＃もってもらえんですかー」って おっしゃってさー(YF:あー) うーん 俺 教えることなんかねーわなー(YF:{笑い})

〔老ー調〕

〔1〕は、「80歳になっている」ということを、冗談めかしている発話である。

〔2〕は、大学の先生から授業を受け持ってもらいたいと依頼されたという話題である。SAは「自分には教えられることはない」と謙遜する場面で、自分を卑下する意図を持ってオレを使用したとも考えられる。否定辞として唯一ネーが使用されていることからも、通常の発話とは異なった意図を持って使用したと考えられる。

(3) YAは《対若》《対調》の両場面でボクのみ使用しており、自称詞は切換えにあず

からない言語項目であると考えられる。

2.1.2. 解釈

(a) (1) のように、SA が用いたオレは、場面を軸とした切換えではなく、発話内容に応じて使用されたバリアントであると考えられる。Labov (1972) は、narrative の構造の中に評価 (evaluation) という要素を設定している。評価 (evaluation) とは、誇張や音の再現などによるジョークなども含むものである。SA は、誇張や冗談めかした表現といった評価 (evaluation) で SA にとっては marked な形式であるオレを使用したと考えられる。この点は、§2.7.で取り上げる否定辞のネーについても同様のことが言える。

2.2. 対称詞

2.2.1. 結果

〔表 4〕

	SA		YA	
	対老	対調	対若	対調
名字＋君	-	-	2	-
アンタ	3	-	-	-

(1) SA は、《対老》でアンタを 3 例用い、《対調》で対称詞を用いないというカテゴリカルな切換えを行っていると思われる。ただし、SA が用いたアンタ (3 例すべて) は、以下のように間投詞的なアンタである。

〔3〕

→193SA:{笑いながら} でー 父親は # 父親も 軍事工場だったけどー 町内のー 役員やっとったもんだから 夜は アンター

194SC:出れなかったわけだね↑ 〔老－老〕

〔4〕

→221SA:だってー {笑いながら} ご飯が いっぱい あるもんなー。 今生の別れーもん[えーもん]だなー ともって[と思って]さー ほれー 真っ白けの ご飯や ご馳走 いっぱい あるだねー↑ ほーんなもの アンター お祭りか 正月か お盆ぐらいしか食べれへんが↑

222SC:{笑い} ほーーんとですねー。 ま # 〔老－老〕

〔5〕[空襲の時の話]

→226SA:うん 空 見たら アンタねー あのー

227SC:ピカーっと 光っとるだけで {笑い} 〔老－老〕

(2) YA は《対若》で名前＋君、《対調》で対称詞を使用しないというカテゴリカルな

切換えを行っている可能性がある。

2.2.2. 解釈

(a) SA・YA ともに、対称詞をカジュアルな場面で使用し、初対面場面で用いないといった切換えを行うのは、フォーマルな場面でなるべく相手に言及しないことによって、改まりを示すストラテジー（松丸・辻 2002）に類似した、非カジュアルな場面でくだけた印象をなくすストラテジーを使用しているためであると考えられる。

(b) ただし、(1) のように、SA は attention getter としてのアンタの使用／不使用を切換えている。つまり、非カジュアルな場面で相手に言及しないことによってくだけた印象をなくすストラテジーを使用し、カジュアルな場面ではより相手に近づくといったストラテジーを使用するという、相手との距離に関するストラテジーを切換えていると考えることができる。

2.3. アスペクト

2.3.1. 結果

〔表 5　非過去〕

	SA		YA	
	対老	対調	対若	対調
テル*1	-	19	21	19
ヨル	3	-	-	-

*1 肯定のみであり、「テイナイ」のような否定は現れなかった。

〔表 6　過去〕

	SA		YA	
	対老	対調	対若	対調
テタ	6	4	5	2
ヨッタ	-	2	-	-
トッタ	14	4	-	-

(1) SA の非過去は、《対老》でヨルのみ、《対調》でテルのみを使用するといったカテゴリカルな切換えである。

(2) SA の過去は、《対老》で 7 割使用していたトッタが、《対調》で 4 割程度になるといった連続的な切換えであるとも考えられる。

(3) SA の過去では《対老》で使用されなかったヨッタが《対調》で使用されている。このことから、SA はヨッタを非名古屋方言話者との会話で使用する形式と認識しているのかもしれない。また、過去の習慣といった用法によって使用された可能性もある。いずれにしても、頻度が低いため判断は難しい。SA が

使用したヨッタは以下の通りである。

〔6〕

→014SA:(前略。昔、遠く離れたアルバイト先へ行く時の話題) ほんで バスの 切符 もらえてねー (YF:えーえー) うれしかったねーー (YF:ほーー) それまで 自転車で行きヨッタもん (YF:あー はい) 20キロ以上のところを (YF:{笑いながら}おーーー) ガタガタ道を (後略) 〔老ー調〕

〔7〕

→022SA:ウイスキーの ストレートでー (YF:はい) 氷を だーず[出さず]に (YF:はい) ん あの ダブルで 1 杯 (YF:はい) ハイモードだわね↑ 普通は (YF:えー あーあー) それを ハイボールって 言いヨッタ (YF:へーー) うん それが 30 円ぐらいする 〔老ー調〕

(4) YA のアスペクト形式は非過去・過去ともに切換えにあずからない。

2.3.2. 解釈

(a) SA の過去が切換えであるとしても、非過去のようにカテゴリカルな切換えではない。つまり、非過去と過去では切換えの様相が異なる可能性があるということになる。SS プロジェクトにおける各地域方言の結果を非過去・過去のようにまとめ直し、分析する必要があるかもしれない。ただし、名古屋では、このアスペクトの状況と逆の「非過去で切換えず、過去で切換える」という状況が否定表現(§2.7.)で観察される。

2.4. の(だ)

2.4.1. 結果

〔表 7〕

	SA		YA	
	対老	対調	対若	対調
ノ(ダ)	-	14	17	30
ダ	6	1	-	-

(1) SA は《対老》でダのみを使用し、《対調》で主にノ(ダ)を使用するといったほぼカテゴリカルな切換えを行なっている。SA が《対調》で使用したダ(1 例)を以下にあげる。

〔8〕

→034SA:そこで 並べて 売ればいー (YF:へーー) どっちがいーか よー わからんけどね (YF:{笑いながら}えーえーえー) 比較しなくていーけども んでも ドラゴンズが 勝

つと　#　大入りとかってさー（YF:はい）50 円　余分に　くれるだわ（YF:ほーー）（以下、略）　〔老ー調〕

(2)　YA は両場面でノ（ダ）を使用しており、切換えていない。

2.4.2.　解釈

(a)　SA はダを、場面を軸として切換えるバリアントとして捉えていると思われる。SA の切換えは、方言形式：共通語形式といった対立がある項目では、《対調》でも方言形式が比較的使用され、切換えるとしても連続的な切換えとなる場合が多い。その中にあって、ほぼカテゴリカルな切換えを行うこの項目はやや特殊な項目であると言えるかもしれない。

(a-1) それはアスペクト形式のトッタや否定辞ンといった他地域でも使用される言語変項と、ノ（ダ）相当のダという名古屋（や中部地方一帯）で使用される地域特有の形態という、形態の地域特有性といった違いの表れであるかもしれない。

(a-2) そうだとすれば、形態の地域特有性といった観点から、切換えの様相をある程度予想できる可能性もある。SS プロジェクトの他地点データも合わせて検討していく必要がある。

2.5.　丁寧形式

2.5.1.　結果

〔表 8　マス〕

	SA		YA	
	対老	対調	対若	対調
シマス	-	2	-	47
スル*1	38	39	53	12

*1

〔表 9　デス〕

	SA		YA	
	対老	対調	対若	対調
デス	-	1	-	33
ダ*1	29	31	42	10

*1 確認要求の「デショ」は含まない。

(1)　SA は両場面で主にマス・デスも用いる。《対調》でマス・デスをあまり用いないのは、§1.で述べたように、SA が大学講師で、YF が学生であるため、フォーマルな場面ではなかったためであろう。

(2)　SA が《対調》で使用したマス 2 例のうち 1 例は、会話の冒頭で用いられたも

のである。

〔9〕

001YF:えーと どんな お話からしましょうか。

→002SA:{笑い、咳払い} 今は (YF:えー) ねー↑ 戦争中の 話を (YF:はい) 話題が 共通で 一番 いーだろって 思ったから (YF:えーえーえー) 話 しましたけどもねー↑ 〔老ー調〕

(3) また、残りのマス1例とデス1例は、以下に示すように、長い説明の最後に話をまとめる部分で使用している。

〔10〕

→004SA:(前略) そして それを基 # で 教員をー やりー (YF:あーーー) そして その 教育基本法なんかを 今 大学で 教えてると {笑い} (YF:あー そーなんです # ねー↑) 教えてることはー (YF:えー) 一貫して 政府が 教育基本法を した (YF:はい) 僕の 現職時代であってー (YF:えー) 今の 子供の あれがー (YF:えー) 教育基本法が 悪いからなんて とんでもない話でー (YF:えー) 教育基本法の ほんとに いーところを 妨害したのはー 文部省そのものだったと (YF:はいはい) んで 僕の 教師生活はー それとの 戦いの↑ (YF:ほー) 38 年だったと (YF:えーえーえー) 文字通り (YF:はい) 学生時代のことはねー↑ わからんでねー↑ (YF:えーえー) ちっちゃいから (YF:えーえー) そーゆー (YF:ほーーー) ことでー (YF:えーえー) 学生たちに (YF:ふーーん) 話してます 具体的に (YF:えーえー) ###ん。 〔老ー調〕

〔11〕

→010SA:うん (YF:{笑い}) せんせ ブルブル震えてさー「きみ 僕はねー あのー ### 今 ちょっと ど忘れしちゃったけどもねー (YF:えー) 劇作家のねー (YF:はい) こーゆーのを 僕は 読んでるんだけどもー (YF:うん えー) たぶん 君たちと同じ 気持ちだと 思うからー 是非 それを 読んでくれたまえ」とか ゆってねー↑ (YF:えーえー) ブレヒト (YF:あ はい) ブレヒトをね↑ (YF:えー) んで 僕も演劇は 多少 やってたからー (YF:ほー はい) うんー「ブレヒトぐらいで 先生 僕ら 驚かんよね↑」(YF:{笑い} はい)「ブレヒトが ブレイクした」とか 言いながら (YF:えー{笑い}) ガタガタガタガタ 震えてねー↑ (YF:えー)「先生は なんで 僕に C つけたんですかーー」言って (YF:{笑い}) {笑いながら} 怒りに行ったことがある。あの うん そーゆー 時代でした (YF:ふーーん) ま 食べ物がない 時代だったから (YF:えーえーえー) 学生協も 今日は 50 食だとかー 〔老ー調〕

(4) YA は《対若》でスル・ダのみを使用し、《対調》でスル・ダとマス・デスを使用するといった連続的な切換えを行っている。

2.5.2. 解釈

(a) McCarthy (1991) は、英語で語られ、十分に展開した narrative は、構造として以下のような要素を設定できるとしている (§2.1.であげた評価 (evaluation) はすべての要素に関わるので省く)。

導入部 (Abstract)

方向付け (Orientation)

込み入った出来事 (Complication)

結果・解決 (Result／Resolution)

終結部 (Coda)

この構造はあくまで英語で語られた場合の構造であり、そのまま名古屋方言話者に当てはめられるものではない。しかし (3) のように、SA が使用したマス・デスは、長い説明の最後、つまり上記の要素でいえば終結部 (Coda) だけで使用されたものである。終結部において、それまでの語りから会話という現実の場に戻るために、スル・ダからシマス・デスに切換えたと解釈することもできる。

2.6. 確認要求

2.6.1. 結果

〔表 10*1〕

	SA		YA	
	対老	対調	対若	対調
デショ	4	1	-	-
ヨネ	-	1	3	2
ダロ	-	3	-	-
ダラ (ー)	1	-	-	-
ガ (ー)	6	6	-	-

*1 SA・YA の談話で使用されたのは「ではないか 1 類」(田野村 1988) の用法のうち、「驚きの表示」を除くもの。

(1) SA が使用したデショは《対老》で 4 例、《対調》で 1 例の使用となっており、その使用率からも場面間で切換えられているとは言えない。§2.5.の丁寧形式の結果と合わせて考えると、主に普通形式 (スル・ダ) を用いる相手に対しても確認要求ではデショを用いることになる。このような結果は東京下町方言話者 (松丸・辻 2002 : 47) でも見られる。SA が《対老》《対調》でデショを使用した発話を 1 つずつあげる。

〔12〕

024YF:{笑い} と あんまり 泊めたこと ないですよ うちは (SA:そー↑) 泊まってくって 絶対 言わない {笑い}

→025SA:でも 近いでしょ↑ 〔老－老〕

〔13〕

→014SA:(前略。遠いアルバイト先へ自転車で行ったという話題)冬なんか たまらんで そんなもん (YF:えー) 風がー 北風が まともに (YF:そーですねー) んで ちょーど大学の 1 年さ 梅雨時でしょ↑ 6 月の (YF:えー あーあーあー) あーーりゃ うれしかったねー (YF:ほー) 〔老－調〕

(2) SA のガ (ー) は両場面で最も優勢な形式となっており、切換えにあずかっていないと思われる。以下に示すように、同一発話内でガ (ー) とダロが混在して使用されており、使い分けの要因が特定できない (ガーは□で囲み、ダロには二重下線を付した)。

〔14〕

→034SA:そこで 並べればいー (YF:へーー) どっちがいーか よー わからんけどね (YF:{笑いながら}えーえーえー) 比較しなくていーけども んでも ドラゴンズが 勝つと大入りと 言ってさー (YF:はい) 50 円 余分に くれるだわ (YF:ほーー) ふっと[すると] 400 円に なる□が↑ (YF:えーえーえー) ね↑ んで だいたい 3 連戦だろ↑ (YF:はいはいはい) ふっと[すると] さんし[3×4] 12 だ□が↑ んで ぼかー[僕は] ジャイアンツ戦しか 観たにゃーもんだからー (YF:えー) ジャイアンツ戦だけ あの (YF:{笑い}) バイト エントリーしてさ (YF:{笑い}) ジャイアンツ戦 タダで 観て↑ 400 円 もらって↑ (YF:{笑いながら}あー それ はい) ほっで[それで] 弁当なんか 売れ残ると 持ってけって くれるだろ↑ (YF:あーあーあー) とー[10]も にじゅー[20]も 〔老－調〕

この発話を見ると、数字の後ではガ (ー) を使用しているようにみえるが、以下のように、必ずしも数字の後とはなっていない。

〔15〕

→014SA:(前略) ほんで 雨降りで もー そいでー 自転車だが↑ (以下、略) 〔老－調〕

〔16〕

→028SA:(前略) あとは 全部が 自分の 時間だが↑ (以下、略) 〔老－調〕

(3) (1) のデショ、(2) のガ (ー) を除けば、SA は (トークンは乏しいが) 方言形式のダラーと共通語形式のダロ・ヨネを切換えているとも考えられる。

(4) YA は両場面でヨネのみを使用しており、切換えていない。

2.6.2. 解釈

(a) (3) を切換えであると考えるならば、非名古屋方言話者との会話で切換えられる方言形式と、(2) のように切換えられない方言形式が存在することになる。これ

は切換えにあずかるダラーやダロには、推量形式においても「方言形式ダラー：共通語形式ダロ・デショ」といった対立があるものの、ガーは確認要求専用の形式であることと関係しているのかもしれない。デハナイカ 1 類相当専用の形式が切換えにくいということについては阿部（2001）でも同様の結果を得ている。

2.7. 否定表現

2.7.1. 結果

〔表 11　否定（非過去）〕

	SA		YA	
	対老	対調	対若	対調
ナイ	4（40）	13（59.1）	23	20
ン	2（20）	7（31.8）	-	-
ヘン	3	1	-	-
ネー	1	1	-	-

*1 当為表現「せんとあかん」「入っとらにゃいけん」（各 1 例）は含めていない。

(1)　SA は《対老》ではナイを 40%、ンを 20%使用する。一方、《対調》ではナイを約 6 割、ンを約 3 割使用する。《対老》に比べて《対調》でナイ・ンの割合が高くなっていることから、《対調》ではヘンの使用を押さえるといった連続的な切換えを行っているのかもしれない。

(2)　なお、SA が《対老》《対調》で用いたネー（各 1 例）は、以下のように冗談めかした場面である。

〔17〕[SA が孫からジージと呼ばれ続けるのではないかという話題]

006SC:{笑い}　ジージで　終わりだわね　もー　全部　ずっーと　来るわね　{笑い}

→007SA:ジージだ。　んまー　ジージ　ダメでいーー　#　良くネーわなー　〔老－老〕

〔18〕＝〔2〕

→006SA:(前略)したら「少しだけ　現場を　＃＃＃もってもらえんですかー」って　おっしゃってさー(YF:あー)　うーん　オレ　教えることなんかネーわなー(YF:{笑い})

〔老－調〕

(3)　YA は両場面ともにナイを用いており、切換えていない。

次に否定（過去）の結果を表 12 に示す。

〔表 12　否定（過去）〕

	SA		YA	
	対老	対調	対若	対調
ナカッタ	-	2	3	7
ンカッタ	2	-	-	-
ナンダ	2	2	-	-

(4) SAは、《対老》のンカッタと《対調》のナカッタをカテゴリカルに切換えていると思われる。《対調》でンを使用しないという点では、表11の非過去と対照的である。

(5) なお、SAは両場面でナンダを2例ずつ使用しており、ニュートラルな形式と認識している可能性がある。以下に《対老》《対調》でナンダを使用した発話を1つずつあげる。

〔19〕

→045SA:(前略) だから 印象に 強かったんかな↑ 僕の 名前 絶対 忘れなんだ 死ぬまで 〔老ー老〕

〔20〕

→014SA:(前略) ぼかー[僕は]もー 自転車だもんで やっぱ 淵 走るー ねー↑ (YF:えーえー) 雨なんか 降ると ほとんど あんまり 通らなんだもんでー (以下、略) 〔老ー調〕

(6) YAは両場面でナカッタのみの使用であり、切換えていない。

2.7.2. 解釈

(a) (2) から、§2.1.の自称詞のオレと同様に、ネーは相手や場を軸として切換えられるのではなく、発話内容に応じて使用されるバリアントであると考えられる。

(b) (4) から、SAは《対調》において、非過去ではンをナイへ切換えないが、過去では切換えるといった非対称的な状況が観察される。SSプロジェクトで調査された他の地点で、非過去・過去によって切換えの様相が異なることがないか、つまり、名古屋という地点(もしくはSAという話者)に特有の切換えの様相であるのか、地点に共通して見られるのかを分析する必要があろう。

2.8. 原因・理由

2.8.1. 結果

〔表13 接続助詞〕

	SA		YA	
	対老	対調	対若	対調
ノデ(ンデ)	-	2	-	10
カラ	3	19	12	4
モンデ	2	4	-	-
デ	1	-	-	-

〔表 14　接続詞〕

	SA		YA	
	対老	対調	対若	対調
ダカラ	3	6	2	11
ホンダデ	1	-	-	-

接続助詞の結果（1～4）と接続詞の結果（5～6）を以下に示す。

(1)　SA の《対老》は、カラ・モンデ・デの 3 つのバリアントを使用して、《対調》では《対老》では使用しなかったノデを使用し、カラの使用率が高くなるといった連続的な切換えを行っている。

(2)　SA のモンデは両場面で使用されており、SA にとってはニュートラルな形式である可能性がある。

(3)　YA は《対老》でカラのみ、《対調》でノデ（ンデ）とカラを使用するといった連続的な切換えを行っている。

(4)　また、YA の《対調》では、ノデ（ンデ）の使用率が高く、カラの使用率が低い。

(5)　SA は《対老》でダカラ・ホンダデ、《対調》でダカラのみといった連続的な切換えを行っている。

(6)　YA は両場面でダカラのみを使用しており、切換えていない。

2.8.2.　解釈

(a)（1）のように、SA はカジュアルな場面である《対老》で使用しなかったノデ（ンデ）を、初対面場面である《対調》で使用していることから、ノデ（ンデ）をフォーマルな形式（あるいはフォーマリティを示す形式）であると認識している可能性がある。

(b) また、SA がノデ（ンデ）へ切換えることは、他の地域言語の結果との比較においても興味深い。

(b-1) SS プロジェクトで報告された方言 SS プロジェクトの老年層における接続助詞では、ノデ（ンデ）の使用と切換えといった観点から以下のようなタイプに分けられる。

（タイプ 1）《対老》《対調》の両場面でノデ（ンデ）を使用し、切換えにあずからないタイプ（東京山手方言話者）

（タイプ 2）《対老》ではノデ（ンデ）を使用せず、《対調》でノデ（ンデ）へ切換えるタイプ（東京下町方言話者・広島方言話者）

（タイプ 3）《対老》《対調》の両場面でノデ（ンデ）を使用せず、切換えにあずからないタイプ（津軽方言話者・高知方言話者・京都市方言話

者・仙台方言話者・大阪市方言話者）

SA の結果は、多くの地域方言の老年層において、ノデ（ンデ）がカラと stylistic なバリエーションとならず、切換えにあずからないことと対照的に、東京下町方言話者・広島方言話者と同様のタイプ 2 となっている。

(b-2) このタイプ 2 は、各地域方言における多くの YA の結果と一致する。この地域差・年齢差とタイプの関係が何を意味するのか、今後、分析・考察を進めていきたい。

2.9. 逆接

2.9.1. 結果

〔表 15　接続助詞〕

	SA		YA	
	対老	対調	対若	対調
ケドモ	6	9	-	-
ケド	8	9	21	13

〔表 16　接続詞〕

	SA		YA	
	対老	対調	対老	対調
ダケド	-	2	2	1
（ン）デモ	2	-	-	-

(1) SA の接続助詞は、《対老》《対調》の両場面でケドモ・ケドを同程度用いており、切換えにあずかっていないと考えられる。

(2) 用例数は少ないが、SA の接続詞は、《対老》で（ン）デモ、《対調》でダケドといったカテゴリカルな切換えとなっている。

(3) YA は接続助詞、接続詞ともに切換えにあずかっていない。

2.9.2. 解釈

(a) SA の結果を、原因・理由の接続助詞、接続詞と比較すると、逆接の接続助詞のみが切換えにあずかっていない。この結果は、逆接の接続助詞においてカジュアルな場面のバリアントとして方言形式が備わっていないことに起因すると思われる（同様の結果は仙台方言話者でも確認できる）。言い換えれば、原因・理由の接続助詞に比べて、逆接の接続助詞の方が方言形式を備えにくい（あるいは共通語化しやすい）のかもしれない。他の地点の結果とも合わせて、検討していく必要があろう。

3. まとめ

SA、YA の切換えのあり方を表 17 にまとめる。

〔表 17*1〕

		SA	YA
§2.1.	自称詞	☆	×
§2.2.	対称詞	カテゴリカル	カテゴリカル
§2.3.	アスペクト（非過去）	カテゴリカル	×
	アスペクト（過去）	×	×
§2.4.	（の）だ	カテゴリカル	×
§2.5.	丁寧形式	☆	連続的
§2.6.	確認要求	連続的	×
§2.7.	否定表現（非過去）	連続的	×
	否定表現（過去）	連続的	×
§2.8	原因・理由の接続助詞	連続的	連続的
	原因・理由の接続詞	連続的	×
§2.9.	逆接の接続助詞	×	×
	逆接の接続詞	カテゴリカル	×

*1 表内の凡例は以下の通り。
カテゴリカル：場面間でカテゴリカルな切換えを行う（と考えられる）ことを示す
連続的　　：場面間で連続的な切換えを行う（と考えられる）ことを示す
×　　：場面間／場面内のどちらでも切換えていないことを示す
☆　　：場面間切換えではなく、場面内切換えであることを示す

(A)　場面間切換え

(A-1) SA がカテゴリカルに切換える項目は対称詞（§2.2.）、アスペクト・非過去（§2.3.）、（の）だ（§2.4.）、逆接の接続詞（§2.9.）であり、YA は対称詞（§2.2.）のみである。

(A-2) SA が連続的に切換えるのは、確認要求（§2.6.）、否定表現（§2.7.）、原因・理由の接続助詞・接続詞（§2.8.）であり、YA は丁寧形式（§2.5.）と原因・理由の接続助詞（§2.8.）の 2 つである。

(B)　場面内切換え（SA のみ）

(B-1) 話の構成要素のうち、評価（evaluation）に関わるジョーク（冗談めかした発話）において自称詞オレや否定辞ネーに切換える。

(B-2) 話の構成要素のうち、話をまとめる終結部（Coda）においてスル・ダといった普通形式からシマス・デスといった丁寧形式へ切換える。

(C)　切換えのあり方

(C-1) 非カジュアルな場面でくだけた印象をなくすストラテジーと、カジュアルな場面で相手に近づくストラテジーを切換える（§2.2.対称詞・SA）。

(C-2) 当該地域に specific な項目か否か（あるいは方言としてのステレオタイプ度）が切換えに関わっている可能性がある（§2.4.のだ・SA）。

(C-3) ある意味・用法専用の方言形式は切換わりにくい可能性がある（§2.6.確認

要求)。

4. 展望

ここでは本文で挙げなかった分析の可能性について示しておく。

(1) YA は切換える項目が少なく、また、方言形式を使用しないという話者であった。ただし、アクセントでは地域的な要素が観察される。方言的な形態を使用しない(あるいは、あまり使用しない)地域や年層では、アクセント・イントネーションなどが切換えに活用されるのかもしれない。談話データにおけるアクセント・イントネーションの分析方法を検討していかなければいけない。

(2) YA は YC との会話について「サークルでは他地域の人もいるから、方言は使わない」といった内省をしていた。YA は収録した談話において、サークルで使用する固定されたスタイルを使っていたと考えられる。本プロジェクトは、フォーマリティが異なる 2 つの場面(あるいはドメイン)を収録するという目的から、カジュアルからフォーマルといった連続体の中の、2 つの場面をとりあげた。しかし、「カジュアル」というスタイルは「カジュアルではあるがフォーマル寄り」「観察される中で最もカジュアル」のように、個人の中でも「カジュアル」の質(ここではフォーマリティ)が異なると思われる。質的に異なった「カジュアル」や「フォーマル」談話を追加・分析することで、話者の「切換える」という行為を包括的に捉えることができると思われる。

【参考文献】

阿部貴人(2001)「青森県弘前市方言話者の標準語スタイルの記述 ーコード切り替えの観点からー」大阪大学大学院文学研究科 修士論文

――― (2004)「仙台方言話者のスタイル切換え」『阪大社会言語学研究ノート』第 6 号 大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室

阿部貴人・坂口直樹 (2002)「津軽方言話者のスタイル切換え」『阪大社会言語学研究ノート』第 4 号 大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室

篠原玲子 (2004)「広島方言話者のスタイル切換え」『阪大社会言語学研究ノート』第 6 号 大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室

渋谷勝己 (2002)「プロジェクトの概要」『阪大社会言語学研究ノート』第 4 号 大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室

髙木千恵(2002)「高知県幡多方言話者のスタイル切換え」『阪大社会言語学研究ノート』

第 4 号　大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室
田野村忠温（1988）「否定疑問小考」『国語学』152
辻加代子（2003）「京都市方言話者のスタイル切換え」『阪大社会言語学研究ノート』第 5 号　大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室
西原菜奈子（2004）「東京山の手方言話者のスタイル切換え」『阪大社会言語学研究ノート』第 6 号　大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室
船木礼子（2003）「鹿児島方言話者のスタイル切換え」『阪大社会言語学研究ノート』第 5 号　大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室
細谷書子（2004）「大阪市方言話者のスタイル切換え」『阪大社会言語学研究ノート』第 6 号　大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室
松丸真大・辻加代子（2002）「東京下町方言話者のスタイル切換え」『阪大社会言語学研究ノート』第 4 号　大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室
南不二男（1974）『現代日本語の構造』大修館書店
Labov, W.（1972）*Language in Inner City*. Philadelphia. University of Pennsylvania Press.
McCarthy, M.（1991）*Discourse Analysis for Language Teacher*. Cambridge: Cambridge University Press.

あべ　たかひと（大阪大学大学院生）
abet@wombat.zaq.ne.jp

〔老ー老〕

収録日時:2003年8月20日
収録場所:SAの自宅
話題:孫→母親→SCの家族→姉→出身地→名古屋空襲→艦載機の説明→戦時中の食生活

001SA:あのー あれ # うん 「もしもし K[SAの姓]です」って 言ったら 「ジージ[お祖父ちゃん]」って こやって (SC:{笑い}) そしたら その次 ちょっと 逡巡したけどねー (SC:はい) どーやって 言おうかな と思って だけど あのー あれ 顔が ピクって 動いて↑ (SC:はーはー) 「ジージだよ」ってゆーふーに

002SC:{笑} そりゃー まー 絶対 可愛いもんで で[出] 出ますわな そりゃー

003SA:はー 駄目だな (SC:{笑}) うん かつて

004SC:それから 100 パーセント 全部 それからね {笑}

005SA:一瞬にして 陥落させられる

006SC:{笑} ジージで 終わりだわね もー 全部 ずーっと くるわね {笑}

007SA:ジージだ んまー ジージ 駄目でいーー 良くねーわなー [SCに茶菓子を勧めて] はい これ 食べなはれー

008SC:ありがとー はい ありがとーございます

009SA:[離れたところにいるYFに茶菓子を勧めて]どうぞ (YF:あ ありがとーございます) ほいであれだな

010SC:もー 絶対 そーだろーね 何日ぐらい みえたんですか↑ 奥さん 自転車 乗せて 走って みえたけど

011SA:はー 一週間ぐらい おったかな↑

012SC:一週間ぐらい みえた

013SA:一週間ぐらい おったかな↑

014SC:お父さん か お母さん なしで↑ 子どもさんだけで↑

015SA:うん うん もー 平気 平気 も (SC:ふーん) 春に そーだった (SC:はーー) 一週間だな

016SC:そりゃー 楽しーわ＊＊＊ 汽車に パッと 乗せて ジ[ジージと言いかけて] あのー 先生が 迎えに 行ってー 新幹線までー

017SA:来る時ー は

018SC:は お母さんか お父さんと 一緒↑

019SA:向こうが 連れてきて

020SC:あー 連れてきて そのまま ＊＊＊

021SA:んで 親と 下の子が 帰ってって んで 今度は うちのが (SC:あー 連れて) って 帰って来たな

022SC:ねえーー うん まー しかし しっかりしてるな 泊まってく なんて 私は 絶対 嫌だね {笑}

023SA:そー↑ そーかな

024SC:{笑} と[泊] あんまり 泊めたこと ないですよ うちは (SA:そー↑) 泊まってくって 絶対 言わない {笑}

025SA:でも 近いでしょ↑

026SC:そー 近い {笑いながら} 近いけ いーでしょ ってんだろーけど いやー 面倒 見てんでもいーだろー これ以上 って 私は 怒りますよ 自分で {笑}

027SA:＊＊＊なんかー もー ほんと

028SC:そりゃ まー 何年も ねー↑

029SA:まー ちょっと 行ったら

030SC:一年越しに いっぺんか それぐらいですもんねー↑ じゃ 毎日でも

031SA:そーよ で「今日は ジージと お風呂 入ってあげるね」 だとかさー (SC:{笑}) 「今日は バーバ[お祖母ちゃん]と お風呂だよ」 なんて 言って 細かいことまで 気ー使ってねー↑

032SC:まー そりゃね 確かに

033SA:ねー↑ 子どもなりに いろいろ 考えるんだろーな↑

〔老ー調〕

収録日時：2003年8月20日 収録場所:SAの自宅 話題:SA の仕事→本→学生時代→馬車馬との衝突→アルバイト(視聴率調査→野球場の売り子→家庭教師)→大学時代の先生→学生運動

001YF:えーと どんな お話からしましょうか

002SA:{笑、咳払い} 今は (YF:えー) ねー↑ 戦争中の 話を (YF:はい) 話題が 共通で一番 いーだろ って 思ったから (YF:えーえーえー) 話 しましたけどもねー↑

003YF:戦争の頃 えーと 幼稚園だっ＊＊＊

004SA:そーそーそー 生まれた時は もー (YF:えー) 戦争 始まってたからね↑ (YF:あーあーあー) 日中戦争 そいから 太平洋戦争 (YF:あ はい) んで 終戦の年は 国民学校1年生だからー (YF:そーですね はい) うん (YF:へー) んだからー 新憲法 教育基本法のもとで (YF:はい) 育ち (YF:はい) そして それを もと＊ で 教員をー やりー (YF:あーーー) そして その教育基本法なんかを 今 大学で 教えてると {笑} (YF:あー そーなんですねー↑) 教えてることはー (YF:えー) 一貫して 政府が 教育基本法を 蹂躙した (YF:はい) 僕の 現職時代であってー (YF:えー) 教育基本法 の ほんとに いーところを 妨害したのはー ＊＊＊そのものだったと (YF:はいはい) んで 僕の 教師生活はー それとの 戦いの↑ (YF:ほー) 38年だったと (YF:えーえーえー) 文字通り (YF:はい) 学生時代の ことはねー↑ わからんでねー↑ (YF:えーえー) ちっちゃいから (YF:えーえー) そーゆー (YF:ほーーー) ことでー (YF:えーえー) 学生たちに (YF:ふーーん) 話してます 具体的に (YF:えーえー) ＊＊＊ うん

005YF:ふーーーん じゃ 小学校の 先生 38年間されてー (SA:そーです そーです) そのあとー その 今の

006SA:えー (YF:えー) G大学 (YF:えー) G大学 (YF:はい あー) それもね 別に 大学の先生 なろー なんて 全然 思っとったわけじゃなくてー (YF:えー) まー 38年 小学校で よーー 子供たちと 堪能さしてもらったのでー (YF:えー) すこし 真面目に 勉強 {笑いながら} しよーかと (YF:{笑}) 頭ん中 も からっぽに なってるしー (YF:{笑}) んで ま ぼかー[僕は] 歴史ー (YF:はい) ですからー (YF:えー) {咳払い} まー 歴史の勉強を さしていただきに (YF:えー) 研究生で (YF:はい) うん (YF:あ そーなんですか) 入って (YF:えー) 2年間 テーマは 持ってるんだけど 今 (YF:えーえー) それよりも あちこちが 楽しくなって (YF:えーえー) あの 自分の 研究テーマが は もー へっちゃっておいてんで 若い先生方の 講義を 全部受けて (YF:あー はいはい) 院生のやつも (YF:えーえー) 学部のもね↑ (YF:えー) 歴史の講義は (YF:ほー) 可能な限り (YF:えーえー) んで あとは あー フランス語の先生に (YF:えー) いー[良い] フランス語の方が みえて (YF:あー はい) んで その先生に えー フランス語の勉強を 教えていただいて (YF:ほーー すごいですね) んで (YF:えー) やって 1年経ったら 僕が あの学生時代に いや 僕が 現職の時に (YF:はい) ここらへんの 近県の 県立大学とかねー↑ H大学だとか いろんな そーゆー 大学の生徒さんたちだった人が (YF:あ はい) 僕が あの ゲストティーチャーで 大学へね↑ (YF:あー) ときどきー (YF:えー) 行っ

〔若ー若〕

収録日時：2004年8月21日
収録場所：YAの自宅
話題：レポート1→サークル→試験→就職→レポート2→アルバイト→レポート3

001YA：ほんとに　月曜日↑

002YC：え　何が　＊

003YA：レポート　あ（YC：あ）あのー　K[授業名名]の　レポート

004YC：そーでしょ。（YA：んーー）だって　書いてたよ　要綱。

005YA：要綱↑

006YA：要綱。

007YA：何　それ↑　{笑}（YF：{笑}）そんなの　あった↑

008YC：うん。授業の　一番　最初の　授業の時　渡されて

009YA：そーだったか　{笑}（YC：{笑}）で　もー　書いたの↑

010YC：もちろん　まだ　{笑}

011YA：{笑}　だよね。そーだよね。（YC：うんー）書くためには　まず　文献↑（YC：そーだよね）借りないと。

012YC：もー　借りられて、もー　その　既に　借りられてないか

013YA：おー。まずい。（YC：{笑}）まずい。

014YC：まだ　大丈夫かな。

015YA：どーかな。（YC：んー）今度の　コート[テニスコート]　取れた↑

016YC：それがね　{笑}（YA：何{笑}）まだっすよ。

017YA：まだっすか。{笑}

018YC：早く　取らないと

019YA：怒られるねー。

020YC：そーなんすよ。{笑}

021YA：{笑}　結構ー　埋まってるー

022YC：埋まってる。ん　で（YA：うん）お盆明けー　って　ゆーのが　結構ー　きいてる↑

023YA：あー　そんなもんかなー。（YC：そー）やっぱ　混むのかね。

024YC：そー。考えることは　みんな　同じ。

025YA：同じ。

026YC：同じだね。

027YA：同じか。

028YC：こっちも　まずいな。{笑}

029YA：{笑いながら}　こっちも　まずいね。むしろ　こっちの方ーが　まずいか。{笑}

030YC：こっちの方が　まずい。{笑}

031YA：参りましたね。

032YC：参ってるんですよ。この時期に　幹事はね。

033YA：そんなこと　ないよ。（YC：ん）12月が　一番　きついだろ。

034YC：あ　ま　そりゃーね↑（YA：そーだよ）宿泊

035YA：予約が　あるからね（YC：そーだよね）大変だよ。（YC：そーだよね）僕だし。

036YC：ん↑　12月↑

037YA：そーだよ。（YC：え{笑}）僕だよー。

038YC：そーだったかー。（YA：そー　何を＊）そりゃー　きつい時に

039YA：ま　予約はね↑（YC：うん）人数ー　確定すればね（YC：あ　まーね）いーんだけどー

040YC：場所が　問題

041YA：ま　場所もね　希望を　とって

042YC：あ　そーでもない。

043YA：宿ですよ。

044YC：宿。

045YA：宿泊場所が　むずい。

046YC：{笑}　あー　なるほどね　宿泊場所ー

047YA：みんな　わがままなんだよ（YC：{笑}）予算って　もんが　あるのに

048YC：みんなの　希望ー　高すぎ

049YA：高すぎるから。

050YC：ぴったり　って

051YA：みんなの　意見がー

〔若ー調〕

収録日時：2001年8月21日 収録場所：YAの自宅 話題：YCのこと→YAのサークル→アルバイト

001YF：あ　お願いします。

002YA：お願いします。

003YF：あの　改めて　YF「人名」です。

004YA：あー　T「人名」です。

005YF：えっと　K[YCの名前]さんとはー　(YA：はい)　お友達ー　(YA：あ　はい)　でー　大学のですか。

006YA：そーですね。(YF：あ)　大学の　サークルの　仲間で　(YF：あーー)　ですね。

007YF：家　近所ですよね。

008YA：あ　そーですね。

009YF：じゃ　子どもの頃からのー

010YA：あ　いえ　小学校の時とか　(YF：はい)　あの　大学　入るまでは　(YF：はい)　特に　そのーー　(YF：はい)　友達って　わけじゃなくて

011YF：あーー　大学　入ってから　(YA：はい)　そのサークルに　入ってからの

012YA：そーですね。サークルで　友達になった　ってゆーか。

013YF：あ　そーなんですね。(YA：はい)　で　そのサークルって　ゆーのは　どんな　(YA：はい)　その

014YA：あのーーー。なんてゆーか　(YF：はい)　{笑}　いろんな　(YF：はい)　スポーツを　その　やる　ってゆー　ので

015YF：いろんな　スポーツを　(YF：はい)　ん　てゆーと　(YF：あ)　例えばー

016YA：例えばー　その　テニスとかー　(YF：あー　テニス)　スキーとかー　(YF：あ)　それから　泳いだりー　{笑}

017YF：かなりー　幅広いですね　{笑}

018YA：そーなんです。幅広く。

019YF：そーゆー　サークルが　あるんですね。

020YA：要は　なんでも　スポーツを　(YF：あ)　何でも　体を　動かすのを　やるってゆー。

021YF：なるほど。(YF：はい)　その時期は　じゃー　何を

022YA：今は　テニスか　泳ぐー

023YF：あー　なるほど

024YA：つい最近は　泳いで　(YF：はい)　今度は　テニスを　やってー　(YF：はい)　そんなとこです。

025YF：で　冬は　スキー。

026YA：冬は　スキーを。

027YF：その3つですか。(YF：はい↑)　あ　あの　テニスと　泳ぐのと　スキーと　3つー

028YA：あー　よくやるのは　その3つでー　(YF：はい)　他にも　(YF：他にも)　んーー　あまり　やんないですけど　(YF：はい)　例えばー　(YF：例えばー)　ボーリングとか　{笑}

029YF：なんか　サークル　ってゆーか

030YA：遊んでるみたいですよね。{笑}

031YF：{笑}　では　ないんですよね。

032YA：いや　遊んでるんです。{笑}　(YF：あ　そーなんですか{笑})　なんか　体を　動かしてー　(YF：はい)　動かして　いられれば　(YF：あー　それでいー)　それでいーとゆー。

033YF：おもしろい　サークルですね。

034YA：{笑いながら}そーゆーサークルです。

035YF：なるほど。(YA：はい)　じゃ　みんな　テニスも　スキーも　できて

036YA：んーー　そーですね。ある程度は　(YF：あ)　ある程度で。

037YF：ある程度。(YA：はい)　みんな　できる。

038YA：んー　はい。できるかな　{笑}

039YF：{笑いながら}　楽しそうですね。

040YA：あ　はい。なんか　スポーツは　やりますか。

041YF：僕ですか↑　(YA：はい)　えーと　僕はですね